

ヴェーナス通信

Venous(静脈) Venus(護美の女神)



第12号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
 東京都東村山市久米川町1-16-5
 TEL & FAX 042-395-9788

容器包装R法全面实施

(紙箱・包装紙・廃プラ加わる)！
 平成九年度より施行された容器包装リサイクル法が、十二年度には全面的に実施される。紙箱のうち、段ボール箱は市場原理で動いているとして指定品目から外れるが、その他紙箱・包装紙は対象となる。昨年七月から十数回にわたり通産省の「段ボール箱・その他紙箱再商品化検討委員会」に参加してきたが各省庁間で最後の調整に入っている今も未解決点や問題が出ている。対象企業が多様多様であり、発生量も不明、回収量はさらに予測し難く、再利用先も殆ど準備できていない。包装紙は製紙原料として再利用可能だが、その他紙箱はRDF(固形燃料)しか無く、可燃ごみとして処理し熱利用するほうが効率的・省資源で環境に優しいとの説も根強い。混合回収した中から、上質の

包装紙だけを選分せよといっても大変な場所と人とコストが必要になり不可能にちかく、さらに固形燃料化する前に、ダイオキシン対策として塩化ビニールでラミネートしている紙製品を排除する作業も必要になると言う。

まるで、ドブに落ちた百円玉を拾うのにドブさらいをしたら、五万円もかかったと言う笑えないお話になりそうだ。その外にも、今実施している各市の古紙回収とすみ分けて回収できるのか、現在製紙原料として回収しない禁忌品も回収しなければならぬが混合しないかなども案じられる。また、プラスチックと紙など複合素材の容器は対象外としてこの法律から外れるためその製造販売者は責任から逃れることや、宅配便で使った段ボール箱は容器でない等、対象外となる容器類の判断も不可解だ(4ページ参照)。ま

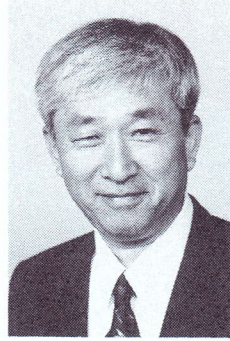
たそれらの物が混入した場合引取り拒否もあり得ると言う。自治体は、回収選分し結束または圧縮をすることになる。これを入札処理する委託業者は古紙業者なのか、固形燃料製造者か、古紙ボード業者か、それらのグループ業者になるのかもはっきりしていない。それにつけても、製造される固形燃料の予定量や利用先とその需要量も不明で環境問題にもまだまだ課題が多い。

廃プラスチックについては、さらに難問山積で十二年度実施は至難のわざとなりそう。製造販売段階での規制はなく、家庭より排出されたものは全て市町村が処理する義務が課せられる今の廃掃法は、なんとも不合理であり、容器包装リサイクル法も市町村負担が多めで排出事業者の発生抑制を誘う痛みにはならぬ。容リ法の問題は、次号でもさらに追及してゆきたい。

直言拝聴

循環型経済社会の構築と経済問題

早稲田大学教授
多摩リサイクル市民連邦代表
東大和市廃棄物減量等推進審議会会長



寄本勝美

リサイクルとは物やエネルギーの再生や再利用をいうが、これを強調し過ぎると、次のような反論を招くことがある。リサイクルよりも発生抑制をまず第一に考えるべきだ。そうでないと、リサイクルは大量生産、大量消費の免罪符になりかねないのでは、というのが、それである。発生抑制とは、「廃棄物の発生そのものをなくするか、できるだけ少なくすること」、つまり「ごみの元を絶つこと」であろう。そうだとすれば、発生抑制は、ごみが出たあとの対策である。リサイクルに先がけて、まず第一に考えられるべきものであろう。

しかし、リサイクルには実はもつと広い意味があるのであって、広い意味でのリサイクルとは、再生利用とか再利用のみでなく、発生抑制をも含めていうのではなからうか。いずれにせよ発生抑制は、

上述のごとくごみ問題への取り組みの順序としては第一に考えられるべきものであるのだが、しかし実際問題としてそれにどれだけの実績（ごみ発生抑制効果）を期待することができののだろうか。その目標を数量的に示している方針とか計画は、ほとんどないのではなからうか。この点、リサイクルについては、例えばスチール缶のリサイクル率とか、廃棄物のリサイクル率の現状や達成目標については、その数値が示されている。これに対してスチール缶の発生抑制を何パーセントにするといったように、数量的目標が示されているような計画は、まず見当たらないだろう。というのも、公権力でもって統制もしない限り、スチール缶の消費量を現状の何パーセントに抑えるといった試みは、不可能であるからである。発生抑制の努力は、生産者や流

通業界あるいは消費者の自主的な配慮と実践にゆだねられているが、それらの成果としての発生抑制の効果を数量的に前もって定めることは、困難であろう。もつとも、税制その他の経済的な手法でもって特定の製品廃棄物や容器包装廃棄物の発生抑制を目指すことは可能であり、この場合にはその達成目標を数量的に掲げることでもきよう。ただしわが国では、政府・自治体サイドの誘導政策がきわめて弱体であることは、周知のとおりである。

このように発生抑制は、その重要性が繰り返し指摘されるわりには具体的な取り組み目標を数値でもって定めるのが難しく、今のところ方針や計画においては、一種の精神規定として言及されるにとどまっており、実効性に乏しい状況にある。

ところで、発生抑制とかり

リサイクルについては、私は前々から、どう考えてよいのか困っている問題があった。

それはつまり、一方のごみ問題や環境問題の立場からすれば繰り返して大量生産、大量発生の見直しが問われているが、他方の不況の脱出からすれば消費の回復が必須の課題であり、地域振興券を含めてあの手この手の回復策を講じているが、こうした矛盾ないし対立をどのように受けとめればよいのか、というのがそれである。

こうした疑問をめぐっては、ごく最近、経済企画庁の構造改革推進研究会、リサイクル・ワーキンググループが、きわめて注目すべき報告を行なっている。当グループの座長は私が務めたが、「循環型経済社会」の実現をめざすこの報告書は、リサイクルと経済成長との関係をめぐる問題を真正面から取り上げた。

そして、産業連関を含めた計量経済学に基づいた調査研究の成果として結論するにいたったことは、現状のごとき大量生産、大量消費、大量廃棄の構造を循環型経済社会に改革することが、経済の安定成長を実現するうえで必須の課題である、という点である。その骨子を紹介すると、次のとおりである。

すなわち、バブル絶頂期であつたような一九九〇年当時の大量生産、大量消費、大量廃棄をそのまま続けたとすると、経済活動は、廃棄物の最終処分地の確保の困難や環境への負荷の増大などによって大きく制約され、しだいにマインス成長度を高めることを余儀なくされるだろう。これに対し循環型社会は、処分地の節約、環境負荷の軽減、資源の有効利用などに大いに寄与する。一方、製品の長寿命化は新製品への需要を低くお

さえ、経済の活性化の妨げになるとの指摘があるが、こうした指摘は、必ずしも正しくない。というのは、まず長持ちする製品の価格は、そうでない製品に比べて高くなりがちであるため、小売りの総額を引き下げるわけではないからである。また、製品のリフォームと部品の用意、廃品や廃棄物の分別収集や選別回収、再生や再利用活動などは、静脈産業の拡大・発展を促すことから、それをとおした経済の発展への寄与率も高まるはずである。

こうして、動脈産業と静脈産業を一体化する循環型経済の社会経済の構造を築けば、わが国の経済はやがて毎年安定成長を続けることが可能になる、と指摘されている。

リサイクルが経済的にみて苦しい現状は、これからも続いていくかもしれないが、やがてそうした事態は逆転し、

循環型経済社会を作ることなしには、経済は成立たなくなると、報告書はいうのである。

リサイクルが経済の現状に振り回されるのではなく、リサイクルの発展を支える経済を築いていかねばならないはずである。またそうすることによつてこそ、経済の持続可能な発展も実現されることになるのである。

**多摩リサイクル団体連合会
(多摩R団連) 新たに結成!**

多摩地域内のリサイクル協同組合(九組合)と、古紙・古繊維・鉄・非鉄・びん・カレット・一廃などの再資源化関連企業が連合し、業界内連携強化とリサイクル行政に対する支援協力を行なう。

事務局電話

○四二―三五七―四五五三

FAX 三五七―四五五四

代表幹事

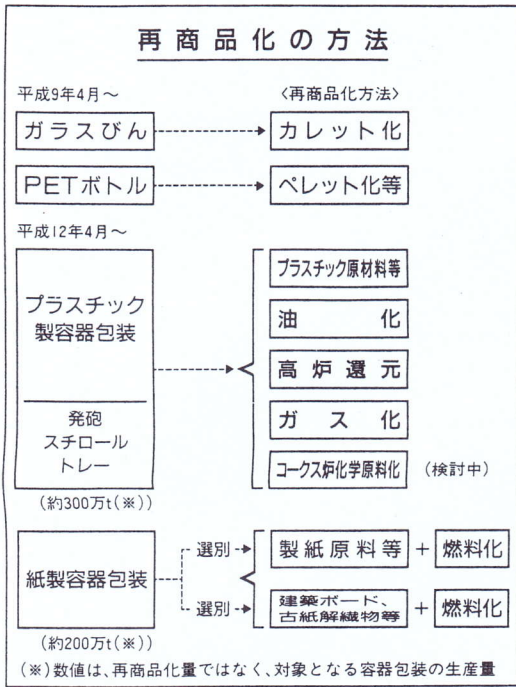
事務局長

津田栄一
江尻京子

容器包装の対象外となる主な事例

- シール、テープ類
- ひも、バンド
- 手紙やダイレクトメールを入れた封筒
- 景品を包む紙袋
- 家庭で付した容器や包装 等
- クリーニングの袋
- 宅配便の段ボール 等
- CDのケース
- 楽器、カメラ等のケース
- 書籍の外カバー
- 社会通念上の判断によるもの

容器包装と物理的に分離されて使用されており、必ずしも当該容器包装と一体となつて物を入れ、または包んでいると考えづらいもの。



九九年度新たな

委託事業始まる

今年度四月より組合に新たな委託事業が加わった。小平市のトレイの融溶化、蛍光灯、乾電池、牛乳パックの選別作業などである。場所は中島町で三月までは市職員が行なっていた作業を引き継いだ業務である。

保谷市では紙、布類の回収委託作業である。保谷市のおよそ半分の地域の回収に当たり、回収物は組合員のヤードに持ち込むこととなった。また保谷市集団回収の委託業務も請け負うことになった。

田無市では今年度の庁舎、市の関連施設、市内小中学校のトレイ、ペーパーに当組合の「ブーメラン」を採用していただくことになった。

新人紹介

- 1 名前 2 生年月日
- 3 趣味 4 好きな食べ物
- 小平リサイクルセンター
- 1 井口恵子
- 2 昭和三十九年七月一日
- 3 読書
- 4 和食・ビール
- 中島町リサイクルセンター
- 1 河野洋子
- 2 昭和十七年五月十六日
- 3 ゴルフ・山歩き
- 4 かに・寿司・肉
- 1 嶋田 守
- 2 昭和四十八年五月三十日
- 3 パチスロ
- 4 かに・寿司・肉
- 1 本多国雄
- 2 昭和十三年三月六日
- 3 ハイキング・温泉
- 4 かに

安全衛生

講習会開催

三月六日、恒例の組合従業員の講習会を開いた。

内容は、各市から委託を受けているRCでの作業心得や安全要項の確認と徹底、車両関係の点検注意事項、スプレ―缶の穴開け作業時の注意事項等。作業の慣れによる大丈夫「だろう」という見込み作業による自信過剰で利己的な態度では作業をせず、それによる事故や怪我を無くし、安全で周りに対して信頼性のある作業をすることを確認した。そして四月一日より施行される男女雇用機会均等法の中のセクハラ対策など詳しい説明を二時間にわたって行った。その後ボーリング大会を行い、懇親を深めました。

(石川)



安全衛生講習会の講習風景。皆、真剣に聞き入っている。

集団回収業者

会合を開く

三月二日(火)PM七:〇〇から東村山市市民センターに於いて、当組合集団回収委託業務を行っている回収業者の会合を開きました。

これは各市からの集団回収委託が始まって二年余り、新年度から保谷市も新たに加わりここでもう一度各市よりの委託契約条項を再確認し、これを徹底する事で、集団回収委託事業の継続と一層の充実を計る目的としたものでした。初めに紺野理事長から最近のリサイクル業界の厳しい状況と各市の委託事業の現状の説明があった。

続いて集団回収委員長小畑から回収で特に注意すべき事項を掲げ、「誠実な業務の履行・回収拒否はしない・計量

環境配慮商品、完全無漂白！

トイレットペーパー

「ブーメラン」

保育園、小中学校でのあいつぐ採用。

65m巻を新発売！1ケース 100個入 3200円(税込、配達料込)。100m巻 1ケース 100個入 4000円(税込、配達料込)。注文はTEL、FAX等で受け付けます。

TEL & FAX 042-395-9788

は正確に行う」などの徹底をお願いした。
また事務局からは保谷市の集団回収委託業務と、事務的注意事項の説明をすると共にブーメラン65m巻き新発売のPRを行い利用をお願いした。

日資連全国決起

大会開かれる

去る三月十五日、大手町のJ Aホールにて日資連（日本再生資源事業協同組合連合会）全国決起大会が、関係者五百名以上の出席を得て、リサイクル循環型社会の構築という目的で開催された。

はじめに、甘利明労働大臣（リサイクルシステム議員懇談会代表幹事）が、「物の廃棄まで考えた産業政策について法整備等の提言をする」ことを話し、福田啓治日資連会長が、「リサイクル機構の存立の危機という情勢下、業界の連携と官民協力のもと、民間活力を生かした経済性の高いリサイクルシステム作りに取り組み必要がある」ことを述べられた。

続いて、大阪大学基礎工学

部民際字学術博士の森住明弘氏による「再生資源業界再生のチャンスを生かそう」という題での基調講演が行われた。この中で再生資源業界の位置づけを確立するにあたって、

①廃棄物と再生資源の境界の新たな線引き基準を設ける。

②マニフェスト制度（伝票と廃棄物が共に移動する制度）を改善し、廃棄物の再生利用認定制度を活用するという法的可能性を探っていく。

③事業協同組合を結成して、実績やコスト比較を行政や市民にアピールし、市民団体との連携を深めた委託業者になる道を探っていく手段が必要であると解説した。

次に、パネルディスカッションの前に、斎藤斗志二・逢沢一郎両衆議院議員が動脈産業と静脈産業のリンクの必要性について、それぞれ挨拶した。

続く鉄部門のパネルディス

カッションは、コーディネーターに浜田卓二郎参議院議員を、パネラーに大野由利子衆議院議員・平林久一日資連副会長・小貫昌男東京鉄鋼取締役・奥田真弥通産省鉄鋼課長・泉真厚生省リサイクル推進室長の各氏で行われ、この中で「議員」は、川上から川下まで一貫したシステムを作ること、「国側」は、鉄関連業界の新しい意見交換の場を設ける・製造段階においてリサイクルしやすい製品を製造するなどを、「民間側」は、再利用促進のための目標値を設定すること・リサイクル製品の需要創出を計る・一般廃棄物や産業廃棄物の許可を取得し易くする・公共事業における電炉製品の需要の拡大を計る・小棒の無償援助を行うなどを意見交換した。

次に紙部門は、コーディネーターに大畠章宏衆議院議員を、パネラーに河村たかし衆

議院議員・倉林喜一郎日資連副会長・生田章一通産省紙業印刷業課長・泉真厚生省リサイクル推進室長・大居昌彦日本製紙連合会参事・中村正子古紙ネット代表・栗原正雄全原連副理事長を迎えて行われ、この中で「議員」は、民間事業者の能力を最大限に活用する・古紙の価格問題に対する率直な意見交換をするなどを、「国側」は、総合的な古紙利用政策を行う・DIP（脱墨）の設備を計画する・製紙では使えない雑紙や紙容器の利用促進を計るなどを、「民間側」は、リサイクルのコストを社会的に十分に負担するシステムを作る・適正な古紙価格や原紙価格で紙を循環させる・古紙や再生品を使う経済誘導策を作ることなどの意見交換をした。

最後に、横田一夫日資連青年部長により、大会宣言が発表され、決起大会は閉幕した。

今回の決起大会は、リサイクルの意義の奥深さを改めて学ぶことができ、かつ、リサイクル事業に関する多くの課題を発見することができ、今後のリサイクル事業の発展に役立つ有意義な決起大会であった。

(柿崎)

研修会報告

去る二月二十七日茨城県新利根町の栗原パルプモールド「当組合員栗原紙材株式会社関連会社」を見学しました。

東村山駅を出発、十時に到着。パルプモールドとは古紙を溶解し、それを湿式成形し、乾燥して、各種梱包資材や緩衝材とした製品です。紙の植木鉢、機械部品の緩衝材、タマゴパック等多数あります。

原料は段ボールや新聞、牛乳パック等の古紙を利用して

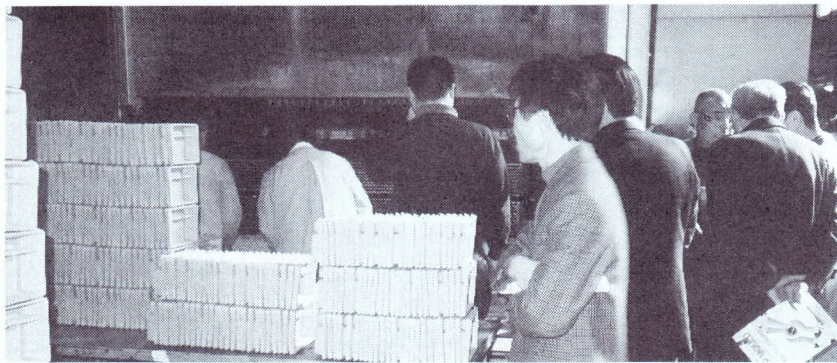
いました。工場内では従業員が古紙の分類をして裁断し大きなパルパーに入れて溶かし、繊維質にしたものを型に流し込み乾燥させると出来上がります。今後の用途も大いに期待できる製品との説明。

これからの研究課題は成形乾燥した時の微妙な縮みやよじれが出て精密な成形がなかなかむずかしいとの事でした。古紙回収率がさらに向上し、再び余剰化となることも考えられるとき、このような古紙を利用した製品がいろいろな産業に使われる事がこれからの循環型リサイクル社会形成に必要ではないでしょうか。

プラスチック製の緩衝材が、ダイオキシシン発生源として大きな環境問題となっています。その意味からも夢のある有意義な研修会でした。



(藤野)



栗原紙材パルプモールド工場見学風景。皆、興味深そうに見学している。

ペットボトル選別

作業体験記

ペットボトルの選別作業の仕事って何をやるのだろうかと思いました。やっぱりコンベアにのっかって流れ作業かなと思ったが、実際は、パッカー車で集めてきたのを、地面の上にあけ、作業する事だった。この仕事に入った当時は、体がなれていない事もあり、一日の仕事が終わった次の日は、全身筋肉痛になり、動けなくなった。正直、思ったよりハードだなと思いました。しかし、三ヶ月あまりたって、体もなれ、筋肉痛もなくなり、仕事にもなれてきました。

これからも、ペット選別人として入った仲間と一緒に元気いっぱいがんばっていきたいと思います。

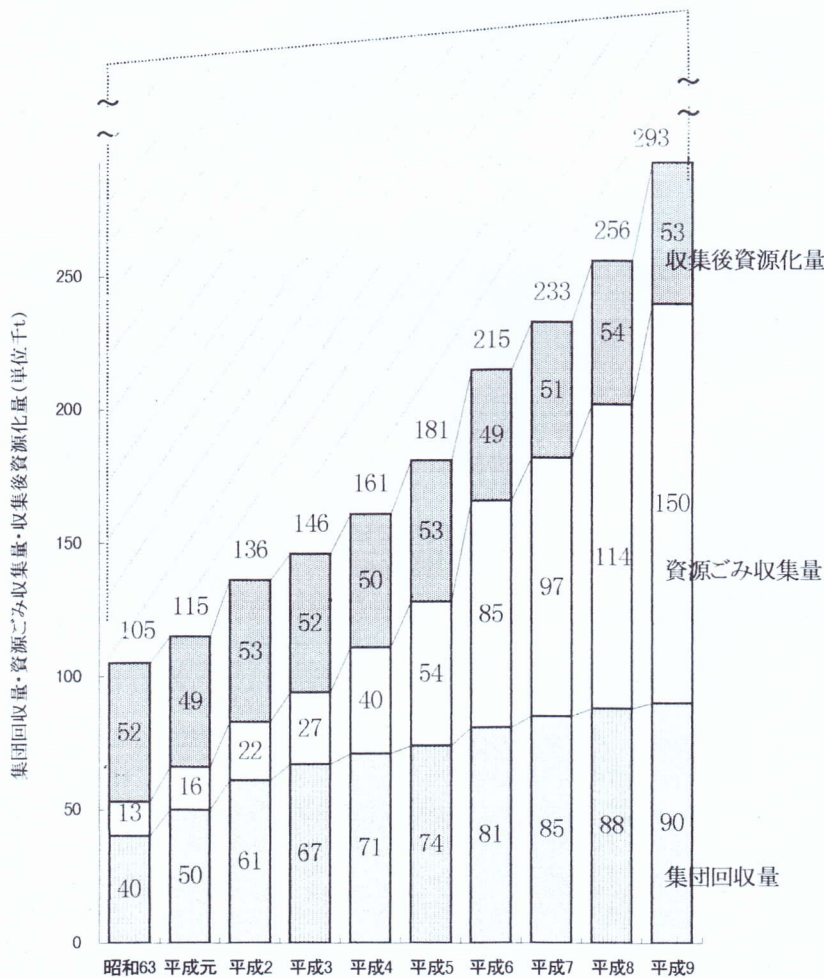
(鈴木正平)

リサイクルQ&A

Q：多摩地区の資源化率が急上昇したようですがどうしてですか？
A：日九年の多摩地区資源化率は22%と全国的に見ても驚異的です。しかし、資源化量は各市町村で把握した分のみで民間の回収分は含まれていません。この十年間、自治体が実施した資源ごみ収集量は十数倍に伸び資源化率も急騰しました。その裏で全く税金を使わない民間回収が、再生資源価格の低迷で撤退を余儀無くされました。つまり数値だけが民間回収から行政回収に移向したとも見られます。その証拠として、収集後資源化量（ごみの中から選分した資源物）や、ごみの総量（可燃+不燃+粗大+持込み）がこの十年間全く減少していないことから明かです。このままでは、低コストで高品質の資源を回収する民間機構が無くなってしまう。集団回収の普及拡大と行政回収（資源ごみ回収）の民間委託を促進して地元回収業者の活用を利用して頂きたい。

施策別資源化量の推移

〔財団法人 東京市町村自治調査会 多摩地域ごみ実態調査（平成9年度版）〕



左図上部斜線部分が、民間資源回収ゾーンと仮定して見ると、これを加えた総ワケが、

主に家庭から排出する総資源物と考えられる。民間回収部分の中には、チ

リ紙交換回収・収集員回収・新聞販売店回収・坪上回収・一般持込などが含まれる。

1998年4月～1999年3月資源化量(kg)速報値

資源物	小平	柳泉園	東村山	東久留米	東大和	合計
新聞	1,911,860	2,226,560	1,132,670	152,540		5,423,630
雑誌	4,278,510	5,282,440	1,602,900	464,660		11,628,510
段ボール	2,002,890	1,701,480	571,390	243,210		4,518,970
今年度	8,193,260	9,210,480	3,306,960	860,410		21,571,110
昨年度	6,748,650	8,233,130	2,421,450	529,110		17,932,340
牛パック	80,700	33,380				114,080
昨年度	77,350	32,880				110,230
古繊維	737,865	760,960	333,310			1,832,135
昨年度	596,705	571,160	268,980			1,436,845
生きびん	309,877				162,665	472,542
昨年度	286,589				131,328	417,917
缶プレス	650,410					650,410
昨年度	653,400					653,400
アルミ	241,491					241,491
昨年度	221,416					221,416
鉄				381,480		381,480
昨年度				299,510		299,510
総合計	10,213,603	10,004,820	3,640,270	1,241,890	162,665	25,263,248
昨年度	8,584,110	8,837,170	2,690,430	828,620	131,328	21,071,658

(注) 柳泉園分は(保谷市+田無市+清瀬市+東久留米市の3/4)

上の表は98年度と97年度の当組合が取り扱った資源化量を比較した表である。98年度分は速報値で確定値ではない。各市行政のリサイクル施設で選別・プレスして出荷された資源、行政回収で組合が直接回収した資源量のみである。(組合が委託されている集団回収量は含まれていない。)

総合計から比較すると19.8%、約4千トンの増加である。紙類のみで20%の伸びを示している。全体の増加率のほとんどが紙で占めていることになる。品種別に見ると新聞が32%、雑誌が18%、段ボールが12%の伸びとなっている。紙類の各市の増加率を比較すると小平市が21%、柳泉園が12%、東村山市が36%、東久留米市が62%である。もともと回収数量が多い地域は増加率は少なく、量が少なかった地域ほど大きな伸びとなっている。東久留米市は市全体の4分の1のみが組合担当なので市全体の数量ではない。それゆえ62%の伸びであるが絶対数からすると320トンの増加である。小平市、柳泉園、東村山市はそれぞれ1000トン増加している。古紙の適正価格崩壊は今までの民間業者による回収が減少し続け、その分行政回収の増加は公金(税金)支出が増加することになる。古紙に限らず、昨年鉄、非鉄、生きビン、カレット、古繊維などすべての再資源化されうる資源物の市場価格が暴落した。その影響で関連企業の倒産、廃業、リストラが相次いだ。この事は引き取り資源の逆有償化となり、回収義務を負う自治体財政を圧迫に至らしめる。

本号の寄本先生の提言にもあるようにリサイクルは再使用や再利用のみでなく発生抑制をも含めた意味を持っていること。発生抑制が経済不況やマイナス成長を現出させると捉えるのではなく、全産業連関と消費を統一的に把握し、リサイクルの発展こそが経済の安定成長を成り立たせる循環型社会を作ることである。現在の不況こそそのチャンスかもしれない。

いわき大王

製紙視察

吉浦高志

昨年の後半ごろから古新聞の注文が少しずつ上向き、2月3月には不足ぎみになりました。原因は各家庭に配られる新聞用紙の古紙混入率が高まり新聞古紙使用量が増えたのではないかと思われま。東資協と合同で3月6日(土)に混入率向上の火付け役いわき大王製紙を視察に行きました。当日は、10時に福島県いわき市の工場に到着し、さっそく陶山部長から、会社概要と工場内の説明を受けました。それによると、新聞用紙の古紙混入率100%の製品は現在他社で作られている45%位の製品と変わらないとのことでした。他社でもDIP(脱

墨ハルフ)設備を増強して古紙混入率の高い製品を作ろうとしていますが、設備そのものが根本的に違う新型機でなければ同品質の製品はできないそうです。その後工場内を見学し、まずハルパーから出る異物(禁忌品)の多さに驚きました。次に、新聞古紙倉庫に行き、おおまかな品質基準をお聞きしたら、3ヶ月前の新聞はダメとの事でした。背糊の付いていない雑誌プレスがたくさん積んであり、新聞の代わりに使用するそうです。1日250t使用する割には古紙の在庫は2日分ぐらいしか無いような気がしました。新聞用紙製造設備から段ボール原紙製造設備まで1時間位見学しましたが、驚いたことに途中出会った従業員は20人しかいなかったようです。全体で10万坪の敷地のなかに2つの工場があり、使用面積でも4万坪はあるようで

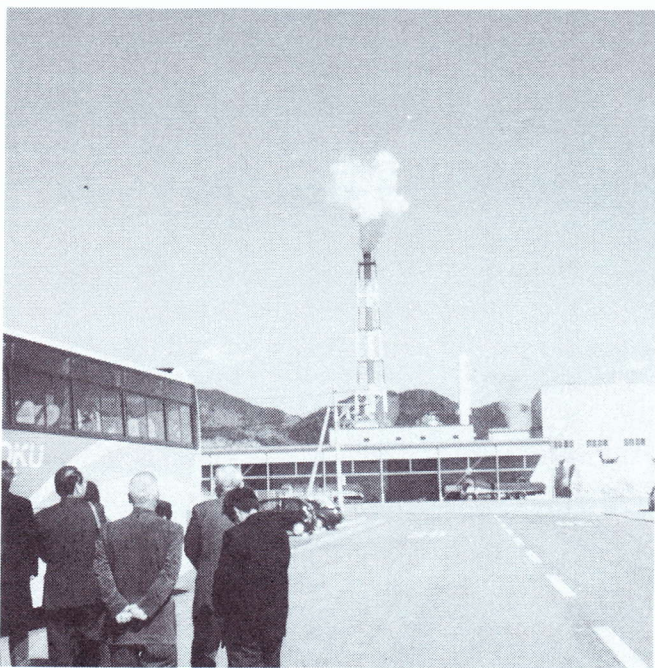
すが、働く人数は180名しかいないそうです。

最後に簡単な質疑応答をして見学を終了しました。

今回の視察で感じたことは、当初、新聞古紙100%の新聞を作ってもらえば古紙が足りなくなつて値段が少しも上がるのではないかと期待して行つたのですが、いわき大

王では新聞古紙より安く入る糊ナシ雑誌とかチラシを大量に使おうとし、新聞の選別基準も厳しくて、値段の上昇は余り望めない気がします。

しかし、古紙を今まで以上に使用する製紙メーカーが増えてくれるのは大歓迎です。今回は貴重な視察をさせて頂きありがとうございます。



いわき大王製紙工場見学風景。

私の履歴書③

奥山商店株式会社

代表取締役 奥山賢児

昭和五十三年、大学在学中

の息子も翌年の卒業を期に商売を手伝う事と成り、経営を会社組織に変更し、株式会社を創立しました。当時、古紙

業界にも機械化の波が訪れ、直納問屋の殆どが大型古紙梱

包機(ベーター)を設備し始めて居ました。新聞や雑誌を紐

で縛ってパレットに積み込む方法では買出人がベーターの

ある問屋へ流れてしまうと考え、ベーターの導入を計画し

ました。弟が埼玉県比企郡川島町で建場をしていたので、

田無との中間の川越方面に土地を探し、川越市下赤坂に川

越営業所を開き百馬力の古紙梱包機を設備しました。

多摩地区で新聞社回収が始まり、当時私は東協協田無支

部の支部長だった為、本部の

反対運動に参加して新聞社の本社や公正取引委員会に足を運びましたが、世の中の流れには勝てず、新聞社回収は現在に至って居ます。

考えて見ればこの頃が『こみげん』の始まりだったと思います。

田無の谷戸集積所より、冷蔵庫・洗濯機・自転車等を埼玉県の関東シユレッダー迄運んで居ました。しかし状況が

急変し逆有償となりましたが、予算が取れない為に、已む無く止める事になりました。古

紙回収についても集団回収を中心に考えるようにしました。

その頃保谷市の大谷課長さんが見えられて、保谷市で古

紙の分別回収を始めたなどの相談があり店まで持ち込んで

もらう事に成りました。順調に品物も集まるようになり、

倉庫を建てました。偶然に営業に来た古紙梱包機の営業の

人にこんなに狭い倉庫の中で

も仕事の出来るコンパクトなベーターを取り付けたらどう

ですかと進められ、田無市から工場認可を受けてベーターを設置しました。しかし近所

の方達の反対もあり、又、何かと手狭な為、取り外しました。保谷市の古紙はパッカー

車や鉄カゴを準備して、保谷のセンターより川越の営業所

まで一日何回も運びました。

平成三年、田無市より東資協東多摩支部に古紙・古布の

引取りの依頼があり、各支部員が運びました。

この年、息子も良き伴侶に恵まれ、紺野理事長御夫妻の

一方ならぬお骨折りにより結婚しました。

多摩東京移管百周年記念事業『TAMARAいふ21』によ

り、柳泉園組合にリサイクルセンターが作られ、古紙を始め

ビン・缶・古布等の資源物を処理する事に成りました。

東多摩支部員は全員一致協力

し『東多摩再資源化事業協同組合』を設立し、柳泉園内の資源物の処理や販売に携わるようになりました。

その後、私は体調がすぐれず、武蔵野赤十字病院で検査の結果、入院しました。肝臓

の治療を受けて、体調は好転しました。入院中時間を持って

余し、ベーターを取り付けて失敗したことなど、いろいろ

と思いを巡らして居ました。

そんな時、田無市芝久保町に準工地の倉庫が空いている事

を知り、田無営業所を開き、百五十馬力のベーター取り付

け、現在に至って居ます。

私達、再生資源回収業者も業者間の連携を大切にし、リ

サイクル行政と協力しながら進んで行かなくてはならない

と思います。その為にも、健康に留意し、若い世代が希望

の持てる業界になるように、此れからも努力して行きたいと思

おわり

行事・行動

(一月)

- 四日：仕事初め
- 十一日：R団連常任幹事会
- ：定例理事会

- 十二日：保谷市廃棄物減量審
- 十四日：容リ法・紙箱再商品

化検討委 通産省

- 十八日：R団連常任幹事会
- 二〇日：小平市RC責任者会
- 二五日：多摩R団連幹事会
- 二六日：新聞R推進会議

- ：紙箱再商品化検討委
- 二八日：田無市廃棄物減量審
- ：古紙センター業務委

- 二九日：小平市廃棄物減量審
- 三〇日：研修視察(栗原ハ
- ルブモールド工場)

(二月)

- 九日：古紙R連絡協議会
- ：保谷市廃棄物減量審

- 一〇日：定例理事会
- 一二日：清瀬市廃棄物減量審
- 一五日：東村山廃棄物減量審
- 一七日：R団連常任幹事会

- 二二日：R団連常任幹事会
- 二三日：古紙センターセミナー
- 二三日：広報委員会
- 二四日：小平市廃棄物減量審
- 二五日：古紙センター業務委
- 二五日：多摩R団連幹事会
- 二六日：市民と議員の会シン

- ボジューム

(三月)

- 二日：五市集団回収委託業者への研修会議
- 六日：いわき大王製紙の視察研修
- 七日：組合員及びRC従業員

- 員の安全研修講習会
- ボーリング大会
- 九日：新聞R推進会議
- ：紙箱再商品化検討委

- 一一日：古紙C理事會業務委
- ：定例理事会
- 一五日：日資連全国決起大会
- 一六日：R団連常任幹事会
- 一七日：紙箱再商品化検討委
- 一八日：広報委員会
- 二三日：東村山廃棄物減量審
- 二四日：R団連常任幹事会

- 二五日：小平市廃棄物減量審
- 二九日：視察研修 城南島エ
- コブラント・J R上
- 野駅リサイクルC
- 三十日：広報委員会

リサイクル川柳

循環型社会になつて

リストラに

ブーメラン我が業界に

ウンをつけ

鉄相場、冷えてしまて

打つ手なし

(ねじ回し)

低価格、雀に

「もらい泣き」された

リサイクルに新たな

資源使いすぎ

(逆ねじ)

編集後記

寄本先生、直言拝聴に御寄

稿頂きありがとうございます。今我々が直面している不況を乗り越えていくには、パ

ブル時代の大量生産、大量消費ではなく、リサイクルの発展を支える経済、循環型社会

を作る事でむしろ安定した日本経済の仕組が成り立つとの

お話に心強く感じました。今後ともよろしくご指導の

程お願い致します。

この度本紙は、Q&Aコーナーを設けました。

私たちが業者でさえ初めて知る事がかなりあります。市民の皆様はじめ組合従業員の方

でも、リサイクルに関する疑問・珍問などの様なことで

も構いませんので、どしどし事務局まで一報をお待ちし

ております。

(吉浦)